キラリ★八代人

防災意識の向上を目指す

気象予報士
早田　蛍さん（島田町）

災害は「まさか」ではなく、「いつか」起きると認識することが大事。と災害の心構えについて話すのは気象予報士の早田蛍さん。

早田さんは気象予報士として「防災ワークショップ」や「お天気教室」などを開催し、防災の大切さや天気の面白さを伝えている。参加した人からは「竜巻の仕組みを実験や映像で知ることができて良かった」「雨粒は滴の形をしていると思ったけど、実際はあんパンの形をしていることに驚いた」という声が聞かれるなど好評だ。

本格的に気象予報士を目指したのは21歳の時。高校を卒業して社会に出るも一生やりたい仕事は何かと考えたときに気象予報士だと思い、大学に入学した。猛勉強の末、国家試験に合格し気象予報士の資格を取得した。気象予報士を目指したきっかけは2つある。

1つ目は高校生の頃、地学の授業で「大気の運動」について学習し、通学中に見ていた煙突の煙の動きにも意味があると知り、気象のおもしろさを知った。2つ目は自然豊かな坂本町で育ち、小学生の頃から自主的に川の清掃をするなど、環境問題に興味があったからだ。

気象予報士となって数年後、熊本地震をきっかけに防災意識が高まる。「私たちにできることはないかと考え、気象予報士の知識を防災意識の向上に役立てたい」と熊本や福岡などの気象予報士と協力して防災啓発団体「防災WEST」を立ち上げた。県外で活動する中で八代ほど災害が起きている地域はないと感じたという。

災害で命を落とさないよう、身を守るために何をすべきか考え、「災害の時に命を守る行動を取れるような判断力をつけなければならない」と八代でも積極的に防災講座を開催している。

防災講座では、参加者みんなで考えコミュニケーションを取りながら学んでほしいとの思いから、気象庁の大雨防災ワークショップを活用したり、子どもたちに気象について関心を持ってもらうため、工作やクイズを取り入れたりなどの工夫を凝らしている。

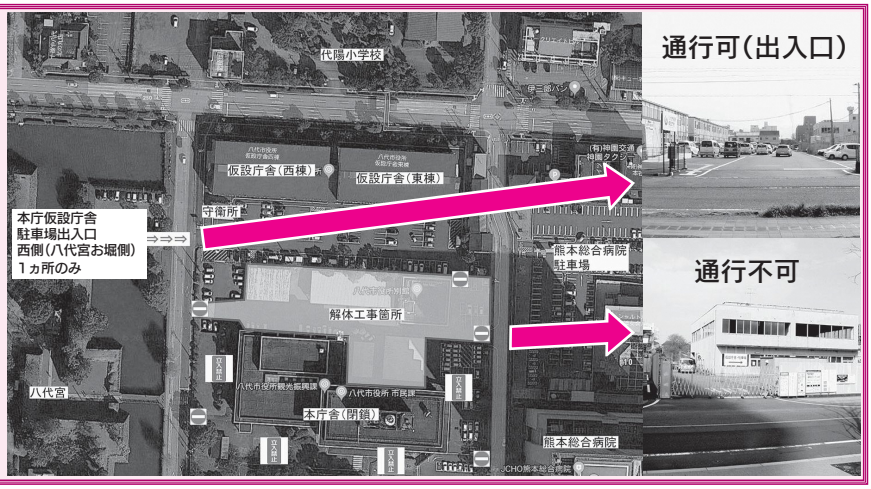
また、「大人になって実験やいろいろなものを見てすごくワクワクした。これを八代の子どもたちにも見て体験してほしい」とお天気教室も開催。「今日のお天気教室は楽しかった」「私も気象予報士になりたい」という参加者の声を聞くと、やりがいを感じ元気が出るそうだ。

九州は大雨や洪水が多い地域のため、災害は「いつ」発生するか分からない。そのためにも、日頃からの心構えや備えを持つことが大切だ。

一人でも多くの人に「災害から身を守るためには、地域の災害リスクを知り、自分は大丈夫だとは思わないこと」を伝えるため、早田さんの活動はこれからも続く。

子どもたちに雨粒の説明をする早田さん

本庁仮設庁舎 車両の 出入り口について

市役所本庁舎別館、倉庫、駐車場棟、駐輪場の解体に伴い、本庁仮設庁舎駐車場の出入り口は「西側（八代宮お堀側）」1カ所のみです。

問合せ　財政課☎33-4106